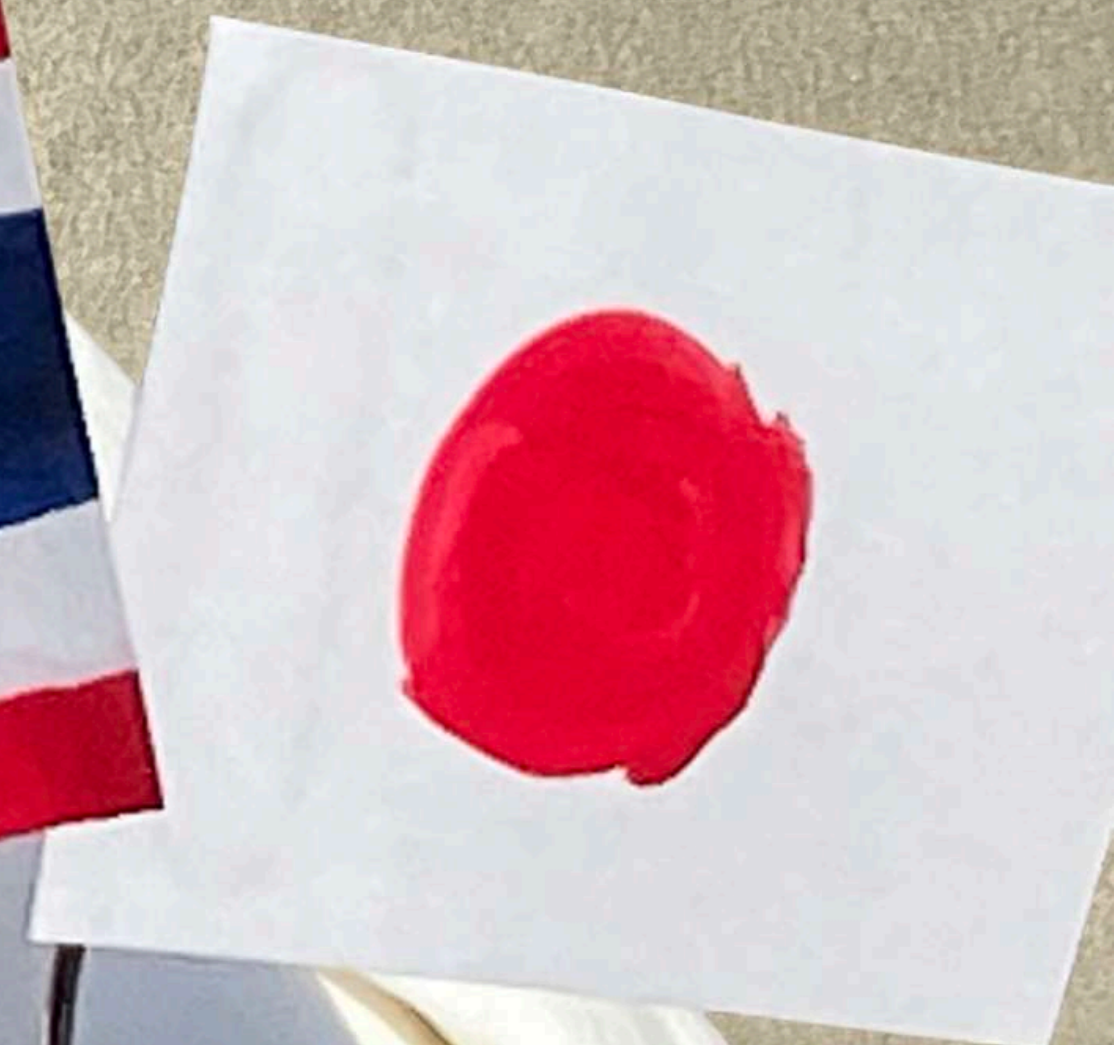
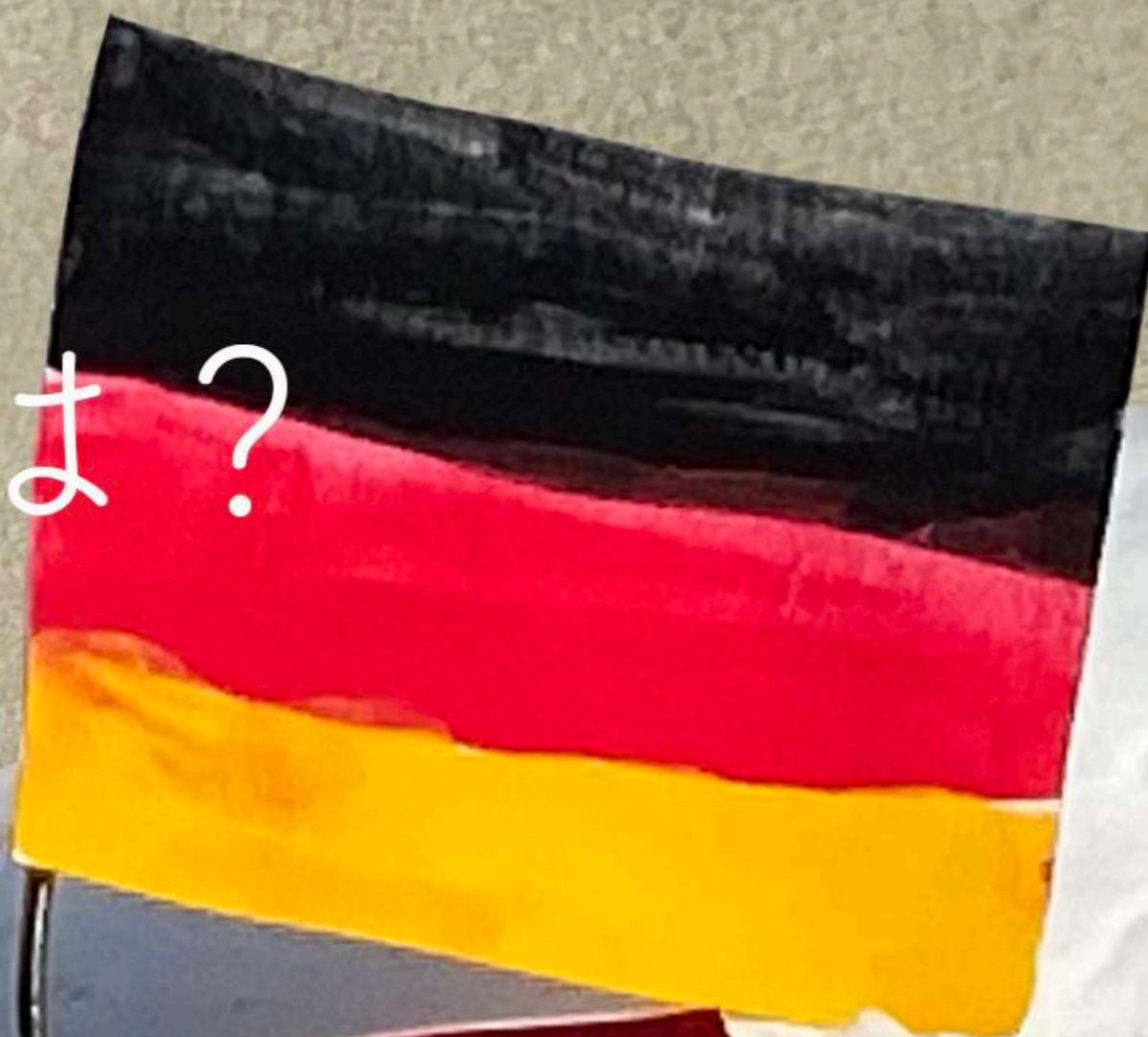


何ちゃんねる

02

あなたのワークスタイルは？



世界も見えてみよう！

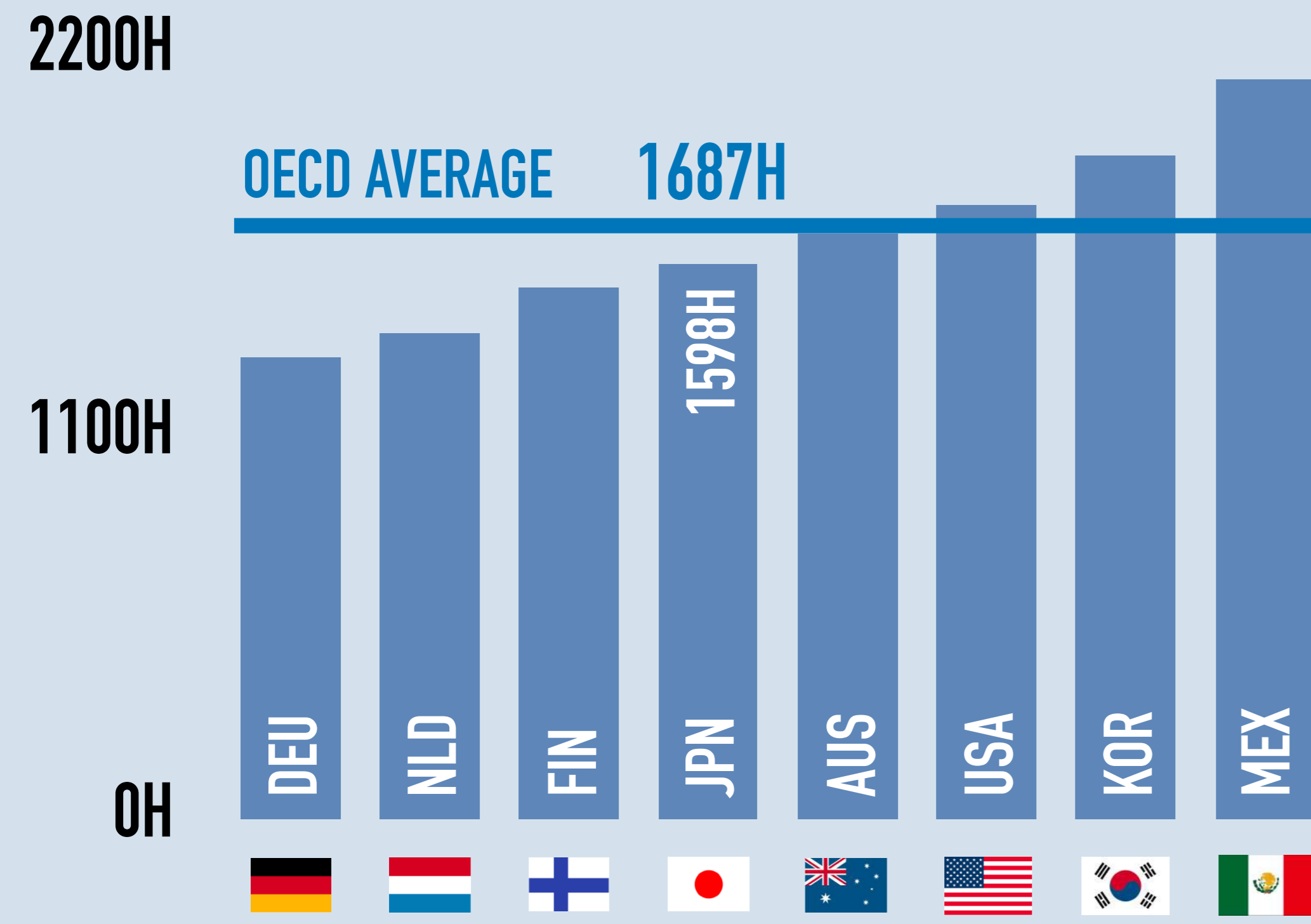
働きすぎと言われる日本人。社会的にも長時間労働に関連した事件がニュースになるなど、働き方に関する注目は年々高まっています。今回はそんな日本の現状を知り、諸外国の働き方を参考にすることで私たちの働き方を見直すヒントを探ってみたいと思います。

01 / 日本の働き方

02 / 世界の働き方

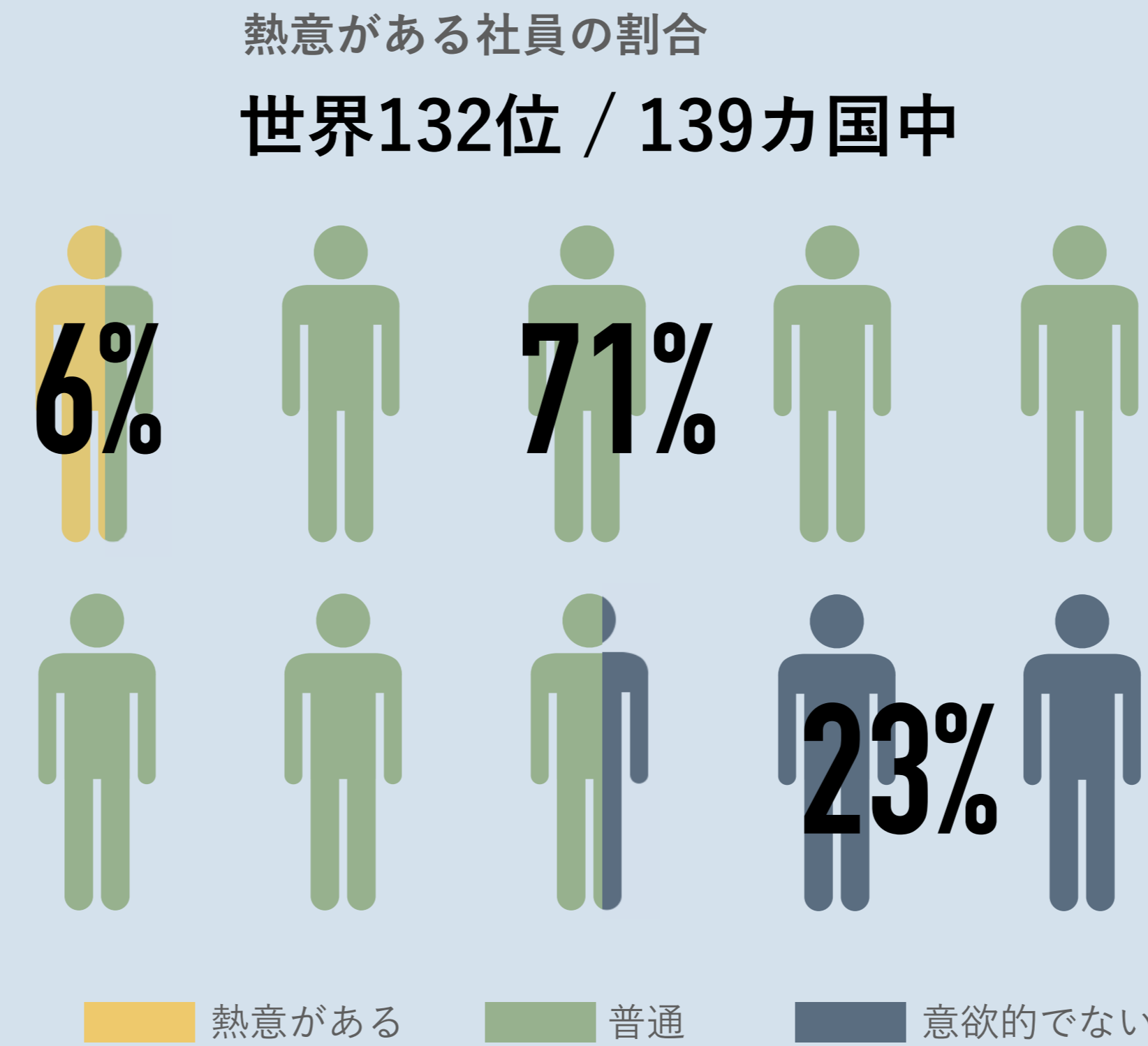
03 / 最後に

年平均労働時間 [H]



出典：OECD date 2020

エンゲージメント



出典：State of the workplace 2017 GALLUP

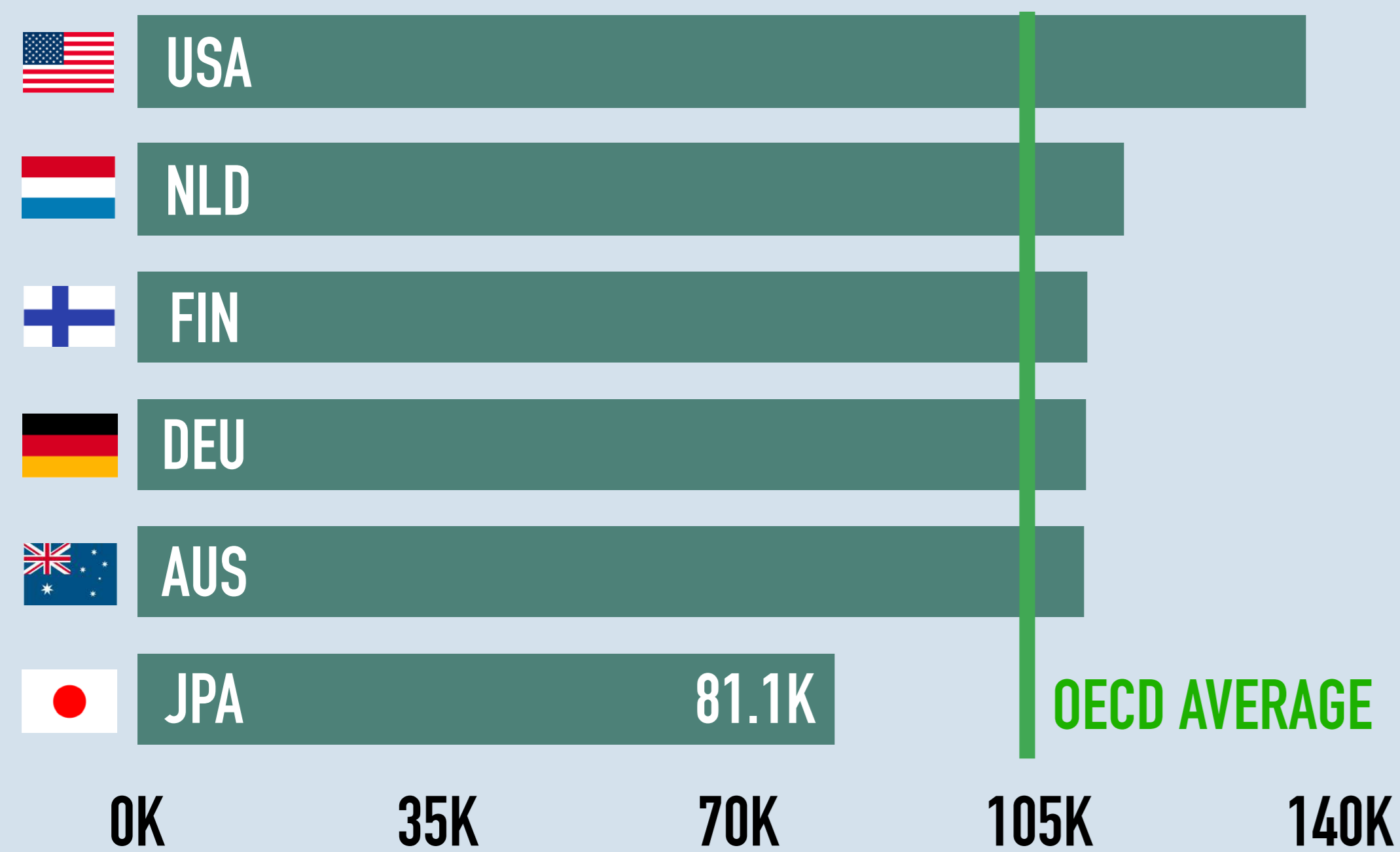
幸福度



出典：World happiness report 2021

労働生産性 [\$ / 人]

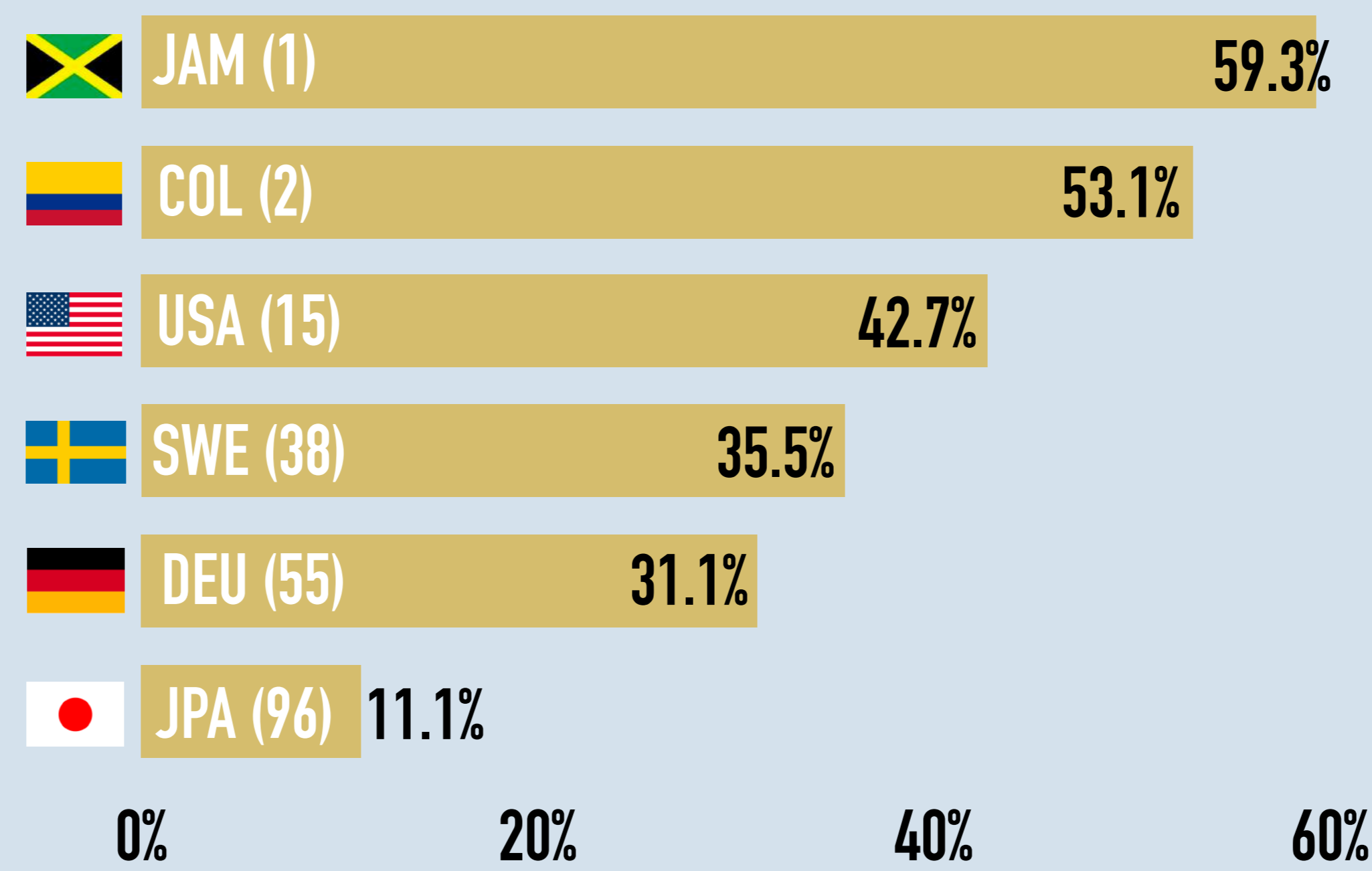
OECD加盟国37カ国で26位



出典：OECD date 2020

女性管理職比率 [%]

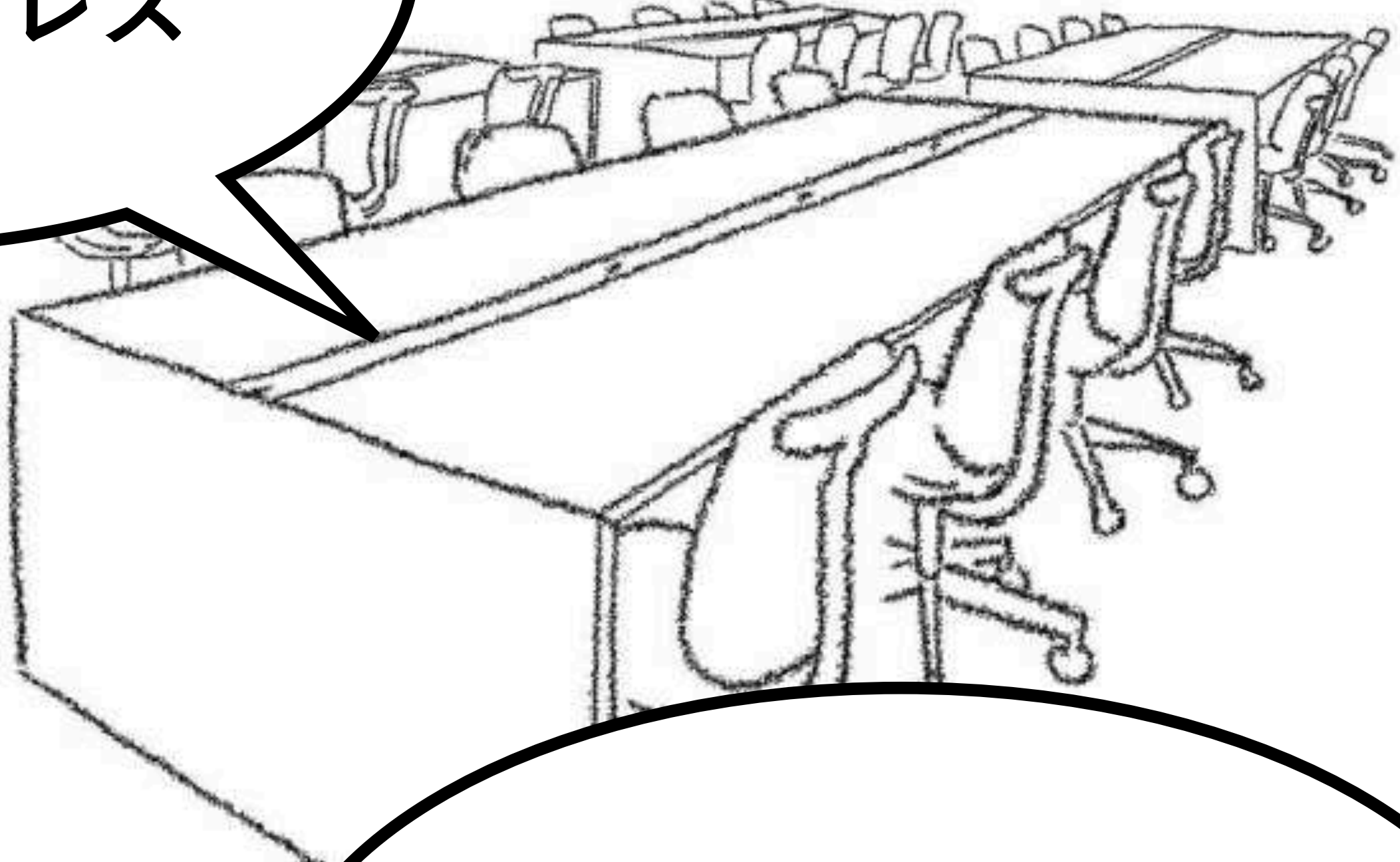
世界96位



出典：Women in business and management: gaining momentum 2015 / ILO




窓側の席いいなあー。



ピシッと揃った
フリーアドレス



お誕生日席！



年季の入ったデスク。。

資料どこだっけ？



BoConcept Live Office



SHISEIDO S/PARK

最近の日本のオフィスは、下の2つの考え方を実現するためにつくられることが多いようです。

ABW (Activity Based Working)

業務内容に合わせて働く場所を自由に選べるワークスタイルです。例えば、生活音や周りの会話などが聞こえないような静かな部屋で集中的に仕事を行ったり、複数人で仕事を進める場合には共同のワークスペースで仕事をしたりするなどフレキシブルな働き方を実現できます。

Well-being (ウェルビーイング)

個人またはグループが、身体的、精神的、社会的に「良好な状態」にあることを指す概念です。具体的には、個人それぞれの権利・自己実現が適切に保障されながら、身体的にも、精神的にも、社会的にも良好である状態を指します。



illustration: Hashimoto Satoshi

ルールに厳格な国民性

仕事や家事など、しっかりと計画を立ててその通りにこなすのが得意とされています。それは、長く厳しい冬を乗り切るため、食料などを計画通りに消費する必要があった時代が長かったためと言われています。また、倹約家でもあり日本人と違って高価なブランド物には興味を示さず、あくまで機能性を重視します。

参考資料：<https://tabizine.jp/2017/01/08/110164/>

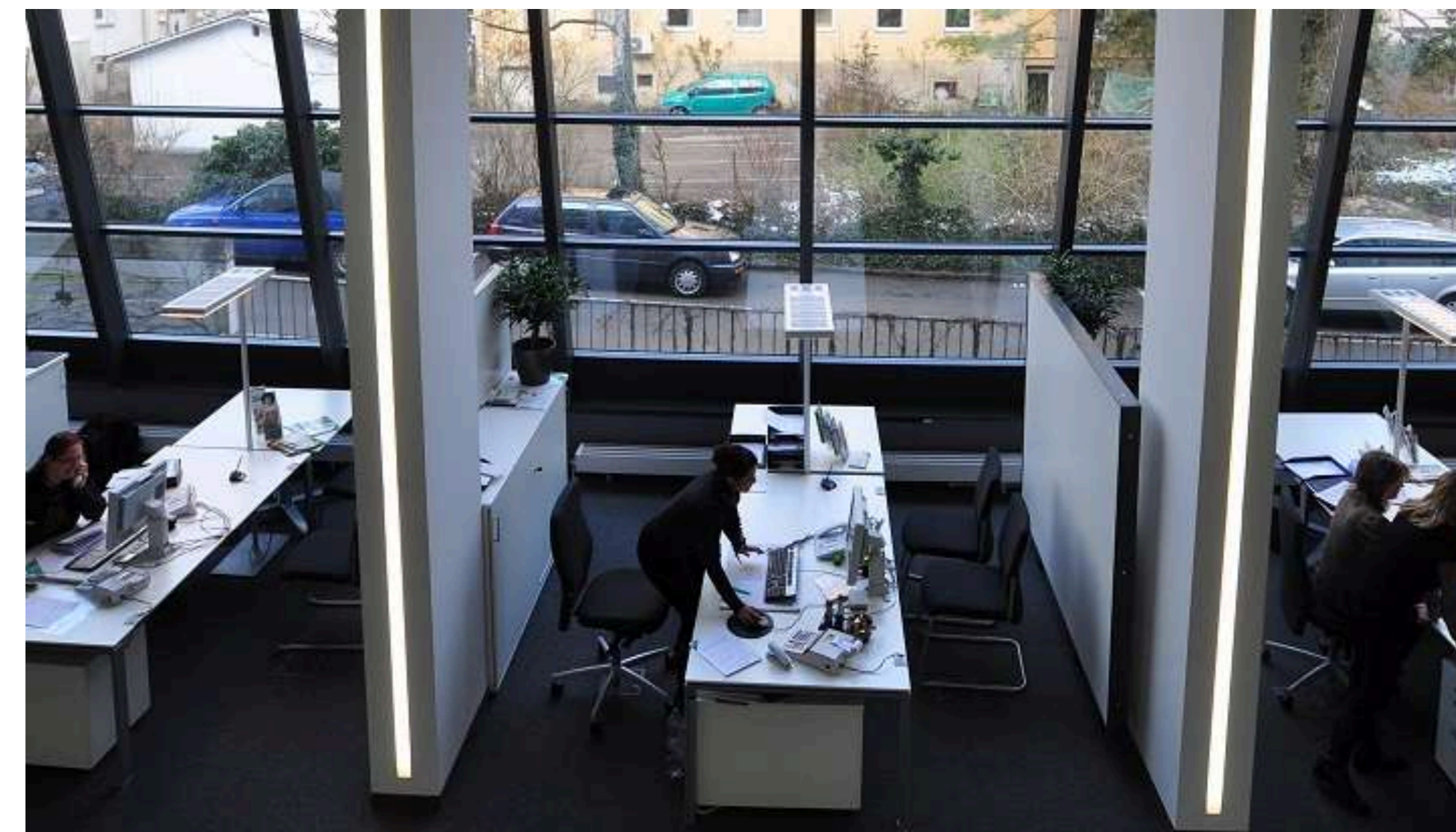
強い個人主義

職場において「個人主義」の文化が強く根付いている。これは、幼い頃からキャリア教育を徹底しているドイツの教育体制とも関係している。そのため、日本のような忖度文化はなく、「家族ファースト」また「自分ファースト」といった考えのもと働くことができ、プライベートな理由で仕事を後回しにすることも珍しくない。

参考資料：<https://officenomikata.jp/coverage/10888/>

個人主義、 厳格な労働時間の管理、 高い労働生産性。

厳格な労働時間の管理



ドイツでは1日10時間を越える労働は法律で禁止されています。仮に、1日10時間以上の労働に従業員に強いた場合や、週末に働かされたことが発覚してしまうと経営者のポケットマネーで最高1,500ユーロ（日本円で225万円）の罰金を支払うことになったり、最悪の場合、経営者が最高で1年間の禁固刑を科せられることもあります。

休暇に関しても「連邦休暇法」というものが規定されています。最低限24日の年休を設定することになっていて、多くの企業は30日の有給休暇を規定しています。

参考資料：<https://at-jinji.jp/blog/16079/>
https://service-portal.fsas.fujitsu.com/service/WorkstyleReform_germany



フレンドリーな文化

- ・イギリスの影響を強く受けている
- ・移民大国・多文化社会
- ・服装がラフな人が多い
- ・キャッシュレスが一般化
- ・バーベキューが家庭料理
- ・フレンドリーな人が多く、**社交的**で横の繋がりを大切にする人が多い


参考資料：<https://au-ryugaku.com/column/culture-habit/>

実力重視のワークスタイル

- ・個人の成績が評価される**完全実力社会**。
- ・出勤はギリギリか時間通りに来る人が多く、**定時ピッタリに退社し、残業はしない**。
- ・仕事とプライベートの切り替えがはっきりしている
- ・仕事を人生の一部だと考える人が多く、**楽しみながら働くことで人生のクオリティも上がる**と考えている

参考資料：<https://wakuwork.jp/archives/54144>

実力主義、 仕事を楽しむ、 プライベートを大事にする。



Well-being

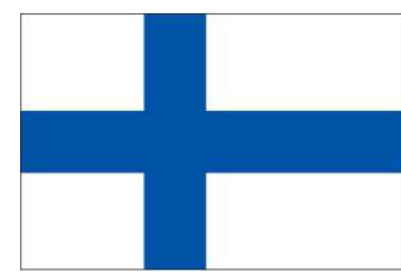
オーストラリアは**ウェルビーイング**で最も注目されている国の一つです。**ウェルビーイング**とは幸福で肉体的・精神的・社会的において満たされた状態を言います。特に国の中心的な産業である金融・保険業界では「**ウェルビーイング**」に特化したオフィスが増えています。

また、オーストラリアは環境保護に積極的に取り組んでいたこともあり、環境を守る技術が進んでいます。**"地球にやさしい=人間にやさしい"**建物やオフィスがたくさん存在してきた背景があります。こうしたバックグラウンドから、社員にやさしい「**ウェルビーイング**」という考えが浸透しているのです。



▲ 都市キャンパスというコンセプトを持つ先進的なオフィススペース
[ANZ (オーストラリア・アンド・ニュージーランド銀行)]

参考資料：<https://www.kokuyo-furniture.co.jp/blog/solution/2015/11/post-58.html>
<https://office.include.bz/archives/11840/>



HERE

人口：551万人
面積：33.8万平方km

大使館にサウナ!?

サウナがある職場

世界幸福度
ランキング
4年連続No.1

SISU (シス)

フィンランド人の国民性を表す”SISU(シス)”が世界的に注目を集めています。フィンランド語で「努力してあきらめずにやり遂げる、不屈の精神」という意味です。フィンランド特有の気候変動や人口の少なさなどの困難な状況へ対応し、自分たちが心地良く生活していける環境をつくり出すことへと活かされています。

効率化を徹底したワークスタイル

残業をほとんどせず、就業時間内にしっかりと働き、同じぐらい休みも大切にしています。特徴的なものは法律で定められた、就業中の”カハビタウコ(コーヒー休憩)”と”タウンユンパ(エクササイズ休憩)”。リラックスやリフレッシュを上手に取り入れることでさらなる仕事の生産性向上や効率化をはかっています。



日本人のサウナの認識と言えば自己と向き合うような、個人で嗜む場所というイメージであるが、フィンランド人にとっては身体をリラックスさせつつ仲間と交流する場として活用されています。学校や職場にあることは一般的で、大使館にも当たり前であり、おもてなしの場として活用されることもあるようです。地位や肩書も関係なく、本当の意味で裸になり平等な関係での交流を楽しむ事ができる場所、それがフィンランドのサウナなのです。

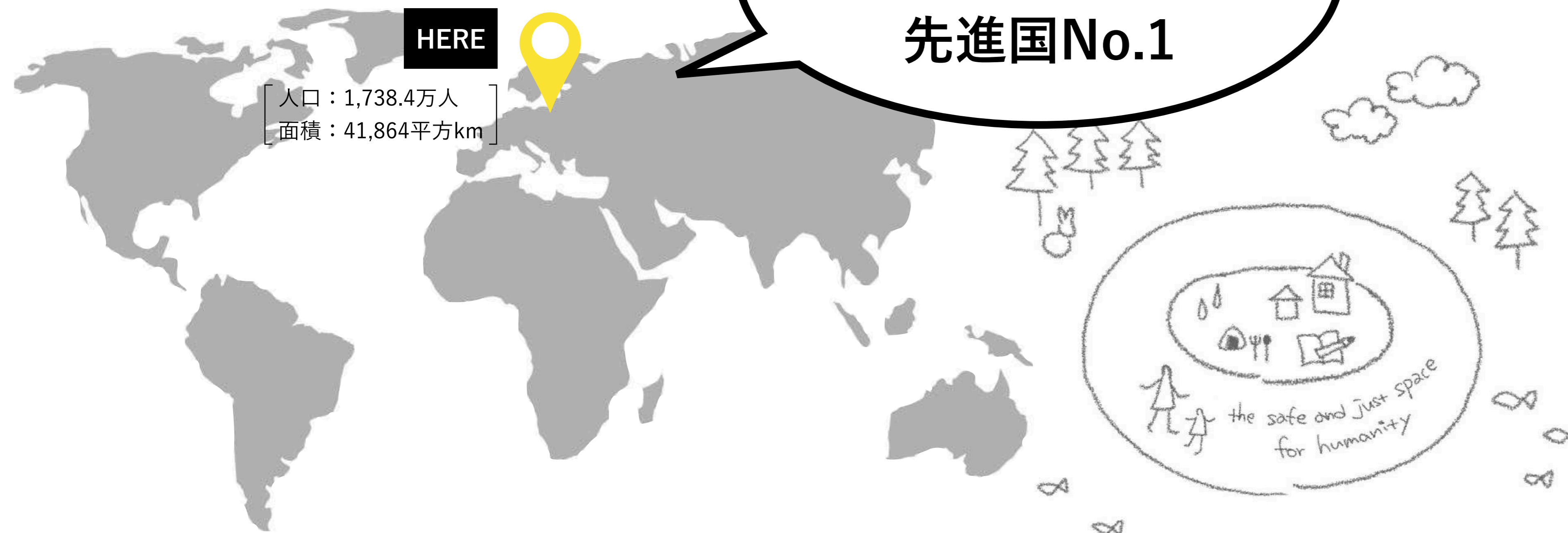
リラックス先進国。

“カハヴィ タウコ”

“タウンユンパ”で生産性↑



参考資料：3年連続幸福度1位、フィンランド人の国民性を表す「シス」とは？



ドーナツ経済

2020年に首都アムステルダムでは国・都市・人間が地球とバランスを取りながら共に繁栄することを目的とし、都市政策に「ドーナツモデル」を導入しました。ドーナツの内側を社会基盤、外側を生物多様性が実現できる環境とし、その間のドーナツ部分のおいしいところが人間と地球のニーズが合致する場所になります。

参考資料：<https://cehub.jp/news/amsterdam-doughnut/>

18時に帰る

「家族や自分の生活がベースである」という価値観を持ち、そのために仕事をする人が多いと言われています。週3や週4勤務で時間に柔軟性に働く人も多いです。雇用の柔軟性や手厚い失業保障により労働者の生活の安定が図られたフレキシキュリティという概念が根付いています。そのため、安心して子育てできる環境が出来上がっています。

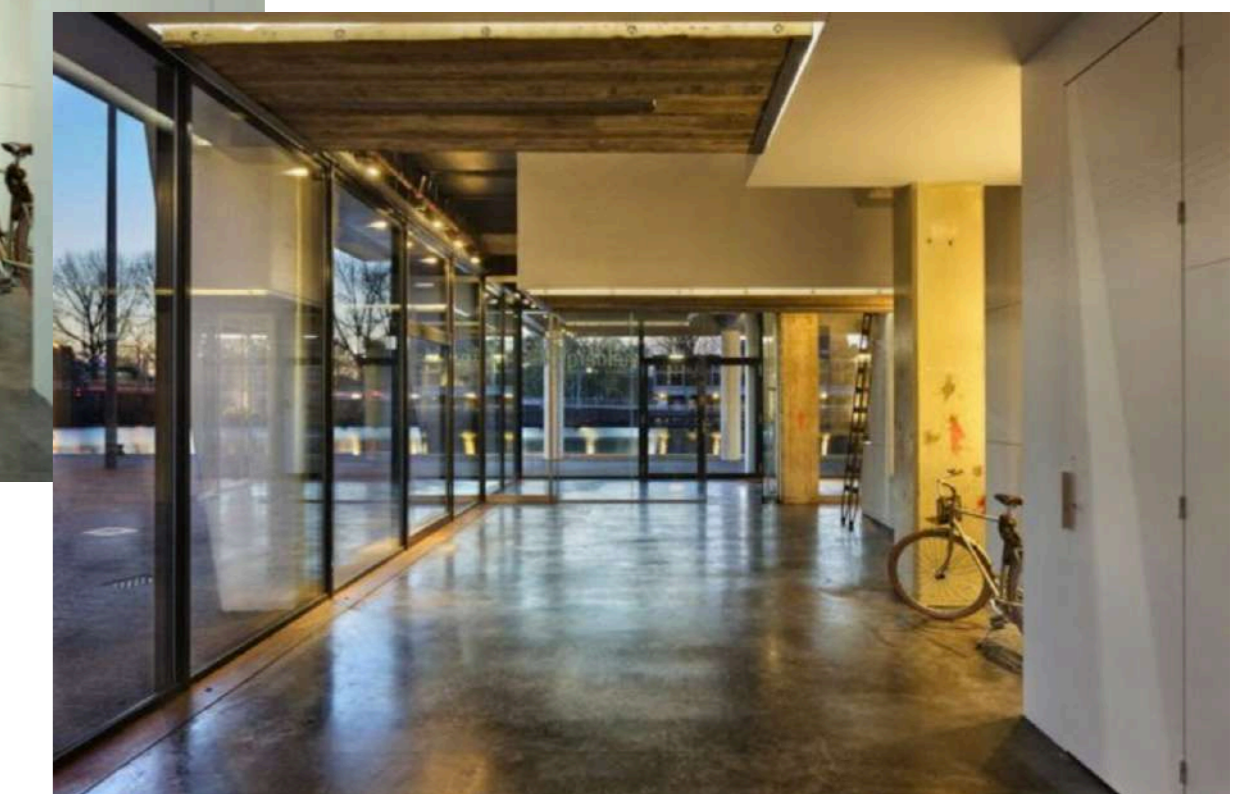
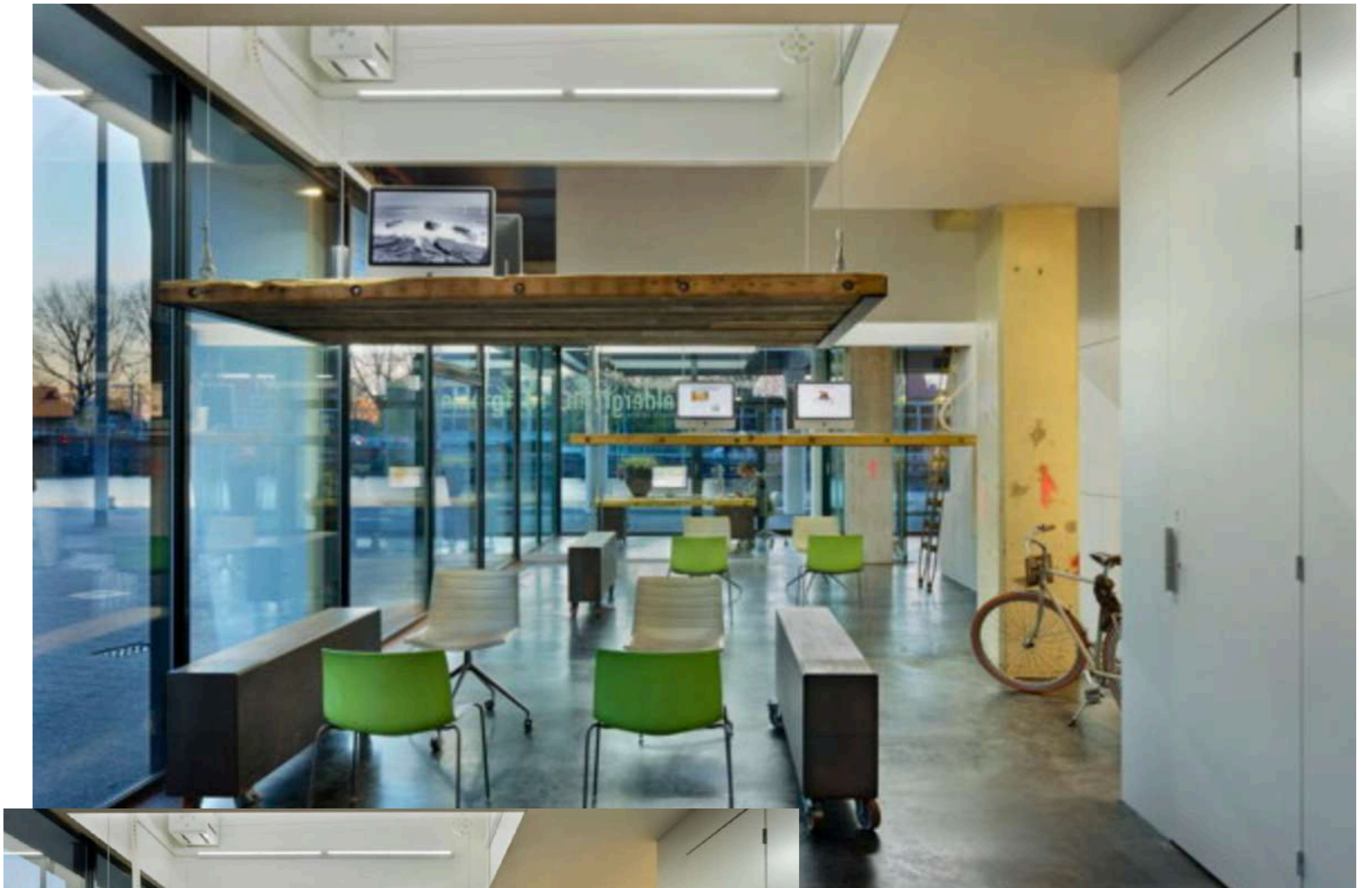
参考資料：<https://www.1morebaby.jp/contents-ehon03/>

柔軟性のある社会。 子供が幸せな国。

18時に 帰る



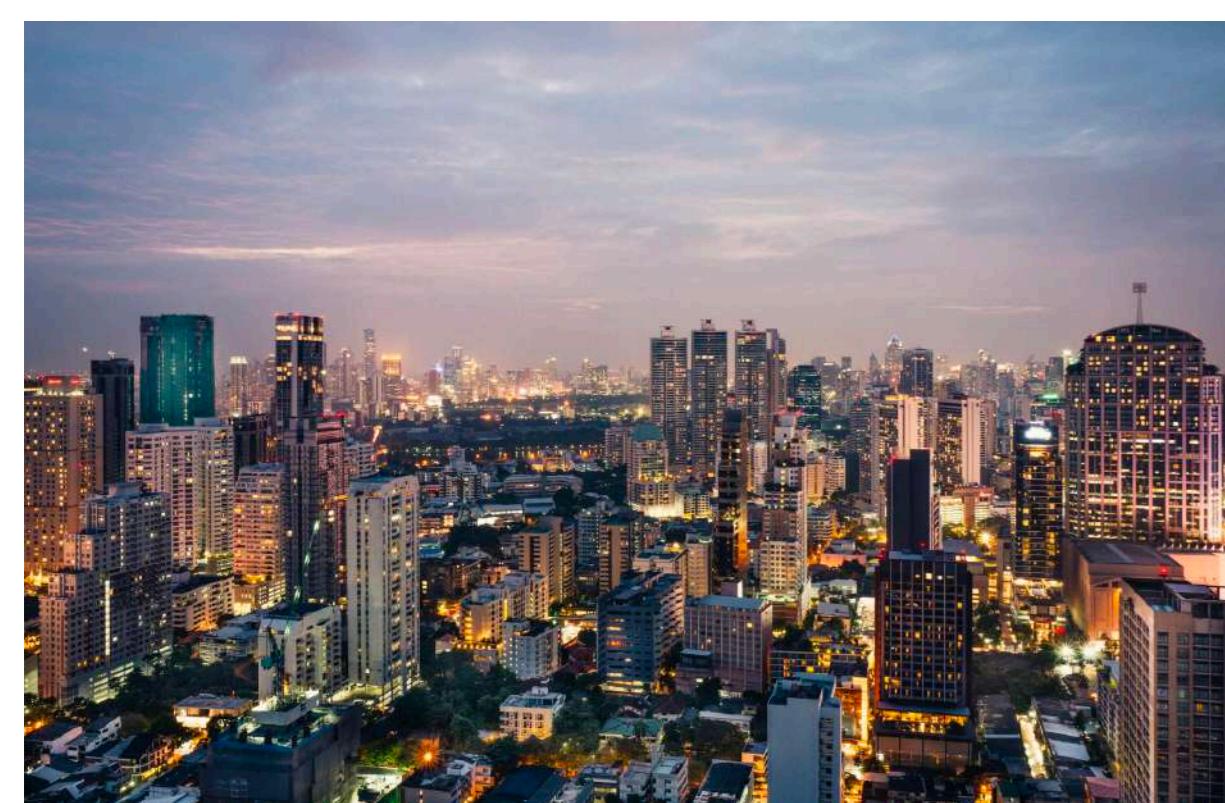
18時になると消えるデスク!?



アムステルダムには18時になると自動的に収納されるデスクを使用しているデザインスタジオがあります。従業員がワークライフバランスを維持できるように帰宅を促したり、空いたスペースではヨガやダンス、パーティーを楽しんだりできるようになっています。

家族や自分の生活がベースをいう価値観があるからこそ、このような特徴的なオフィスが生まれたのでしょうか。あなたのオフィスにもいかがでしょうか？

参考資料：<https://digitalsynopsis.com/design/heldergroen-amsterdam-office/>



東南アジアのカルチャー

東南アジア諸国は熱帯雨林気候に分布し、気候のためか南国気質でマイペースで、寛容で、おおらかな人が多いと言われています。大小様々な島からなるこの地域の国々は多民族国家であるため言語や宗教も多様であることが特徴的です。

「家族>>>仕事」の東南アジア

働き方についてはどの国にも共通して「家族>仕事」という価値観があり、家族思いの人が多ようです。おしゃべりやおやつを食べながらする「ながら仕事」が当たり前のマイペースな環境です。基本的に残業はなく、有給休暇の他に病気休暇や所要休暇があるなど休暇制度も充実しているようです。

家族を大切に作る働き方。 それを支える、 仕組みづくり。

Happy Workplace Program (HWP)



2003年にタイ政府により開発されたプログラムで、職場での従業員の健康促進やQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上を目的として始まりました。「Happy 8」という8つのコンセプトで構成され、例えば、会社内にジム、保育所、図書館、英会話や投資の講座など様々なHappyを実現するための機能を一つの街のように導入します。そして、従業員だけでなくその家族や地域社会も対象とし、家族を大切にするという価値観をも尊重するプログラムとなっているのが特徴です。

参考資料：https://www.jstage.jst.go.jp/article/sangyoeisei/56/3/56_D13002/_html/-char/en

文化づくりから始めてみては？

これまで、5カ国のユニークな働き方や制度、取り組みやオフィスについて見てきました。それは、その国特有の文化や国民性があるからこそ実現できているように思えます。あなたの会社でもユニークな企業文化づくりから初めて、自慢できる働き方・オフィスを作ってみてはいかがでしょうか。